

常任委員会 活動報告

風力発電事業計画を 多面的に検証

民生常任委員会

4月12日



事業者からの説明を受ける

また、発電機の建設に必要な資機材を運搬するために、周辺地域の既存道路を拡張する可能性があることも明らかにされました。

事業者は、周辺環境への影響を評価し、対策を講じる環境影響評価（環境アセスメント）の手続きを進めており、現在は、現地調査を行っている段階で、今後、準備書、評価書の作成を経て、事業の実施に至るとの説明がありました。現地調査等の対象は、環境、自然、動植物の生態系、景観、人の健康、人と自然のふれ合いなどで、地域住民との意思疎通を図りながら事業検討を行うとしています。

委員からは、住居や福祉施設までの距離、騒音が引き起こす、わずらわしさなど健康への影響に関するものほか、住民の理解や意見、まちづくりと合致した事業展開、風車の稼働年数、渡り鳥への影響についての質問がありました。

また、発電機の建設に必要な資機材を運搬するために、周辺地域の既存道路を拡張する可能性があることも明らかにされました。

所管事務調査とは？

所管事務調査とは、委員会が市政の各分野における課題の解決に向けて、自主的に調査を行い、市長等の執行機関に対し具体的な政策や施策を積極的に提案するものです。

〈一般会議〉市民との意見交換

民生常任委員会では、4月22日に、市民団体「気仙沼の森と海を守る会」（以降「守る会」との一般会議を開催しました。

守る会は、当該事業の基礎資料となった環境影響評価報告書の内容を参考に、巨大風車の建設が地域と住民に及ぼす影響の大きさを指摘し、計画への反対を明確に示しました。

反対の理由の一つとして、騒音、低周波音、風車の影（シャドーフリッカー）が近隣住民に与える健康被害に言及し、全国の他の事例においても、一定の割合で騒音による睡眠障害などの訴えがあり、医学的な検証が必要であるとしたデータが示されました。

環境アセスメントについては、事業の実施を推進するための手続きであり、事業を中止する可能性のある問題を抽出する手段ではないことを強く認識してほしいとの訴えがありました。

会議に参加した地元自治会等の関係者からは、自治会で反対の意思が示されていること、風力発電機の建設で、自然環境の保全に障害が生じる懸念があることなどが示されました。最後に、守る会の

代表から、民生常任委員会として住民の反対の声を受け止め、市民の声を尊重する検討、決定を願う訴えがありました。



市民の森に既設の風力発電所

〇一般会議とは？

一般会議とは、議会基本条例に基づき市民が議会の活動に参加できるよう、市政上の課題などについて、市内で活動している団体等と議会が自由に意見交換する場です。開催を希望する場合には、申し込みが必要です。

お申し込みは
こちらから



特別委員会 活動報告

新庁舎建設調査特別委員会

新庁舎建設工事関連の説明を受ける

令和6年6月3日、旧市立病院解体工事の完了及び土壌汚染対策工事の進捗状況について、市当局から説明を受けました。

旧市立病院の建物自体の解体は、令和6年3月29日に工事を完了しました。

これとは別に、病院の移転に伴い実施した土壌調査において、水銀を含む医薬品等に起因する土壌汚染が確認されたことから、「土壌汚染対策工事」を新庁舎建設の造成工事着手前に、除去等の対策工事として、10tダンプ100台程度の土量を搬出する作業が令和6年12月末日まで行われます。

新庁舎実施設計の進捗状況については、積算額が119.4億円、令和5年6月の基本設計概算額と比較して、19.6億円増加しました。要因は主に物価高騰によるもので、今後も注視していきます。

基本設計説明書(概要版)でも示されているのは、以下の点です。



新庁舎建設地現況写真(敷地北西角より撮影)

1. 気仙沼の新しい「しるし」となる「まちかど庁舎」
2. 市民が集い、賑わいが生まれる「コミュニティ庁舎」
3. 快適性を追求した時代の変化に対応する「アメニティ庁舎」
4. 敷地全体をフル活用した、まちを守る「防災拠点庁舎」

以上の設計方針実現のため、今後も努力していくとの説明がありました。

人口減少対策調査特別委員会

政策提言に関する意見交換

令和6年2月20日、当委員会が作成した人口減少対策に関する「Uターン」をテーマとした政策提言を当局に提出しました。

一方本市では令和5年度より、人口減少対策に関する市民会議「けせんぬま未来人口会議」を開催し、気仙沼商工会議所から提出された提言と、市議会から提出された提言を合わせ「(仮称)けせんぬま未来アクションプラン(案)」を作成しました。

令和6年4月26日の特別委員会では、このアクションプラン(案)に対して、政策提言の内容がどのように反映されているかなどの意見交換を行い、また5月7日には、議員全体説明会が開催され、同様の内容に対する質疑を行いました。

これらを踏まえ本市では、5月31日に人口減少対策のアクションプランにあたる「けせんぬまWell-beingプラン2024」を発表しました。

6月定例会では、議会組織の再編があり、6月25日の特別委員会では、新たに菊田委員が委員長に就任し、今後の委員会の取り組みとして、人口減少対策に資する新たなテーマについても議論を行いました。女性や高齢者への支援、人口減少後の課題に対する対応など様々な意見が出されており、今後テーマを絞り取り組んでいく予定としています。

